

●J/CA国内研修ゲンバ訪問記 VOL.7 離島医療研修の与論島編

OJAMA-SHIMASU 十日だみに

2月末、真冬の東京から南の島へ。1月に来日した2人は、すでに奄美大島、屋久島などほかの島の研修を終えて、与論島には昨日来たのだぞ。

午後1時半、予定より少し遅れて到着したバナウル診療所。この診療所は、この島で唯一の診療所だ。沖繩の三輪の先生が3年前に来島し、診療所を立ち上げた。

とてま診療所っぽくない診療所だった。先生は元気な外観、職員も笑顔で迎えてくれた。院長の古川先生、研修員のガビさん、ジニーさんと、通訳の川上さん。

ここで高橋先生の健康増進にも力をいれてもらおう。その辺りです。

午後2時、古川先生運転のワゴン車で往診に同行。1月の来日した2人は、すでに奄美大島、屋久島などほかの島の研修を終えて、与論島には昨日来たのだぞ。

定期的に住診しているお年寄りのお宅を訪問しながら、与論島をほぼ一周した。定期に往診しているお年寄りのお宅を訪問しながら、与論島をほぼ一周した。

このお年寄りが長寿ですか？ そうです。年がわりに元気な方が多いですね！ 島のお年寄りは健康に気を付けていて、意識が高くて、わくわくしています。健康に気を付けていて、意識が高くて、わくわくしています。健康に気を付けていて、意識が高くて、わくわくしています。

往診先のお年寄りの方々は先生が来るのをとても楽しみにしているカンジで。往診先のお年寄りの方々は先生が来るのをとても楽しみにしているカンジで。

午後3時、診療所に戻ったところでちょっとインタビュー。日本のファイリピン、この研修での目標とか、どのへんを、えーと、とてま診療所のこと、この研修での目標とか、どのへんを、えーと、とてま診療所のこと。

でも、2人はどこまで明るく前向きだった!! よかった!! ので、それと、とてま診療所のこと、この研修での目標とか、どのへんを、えーと、とてま診療所のこと。

そのうち右側の外来診療が始まって、研修員一行は見学のため診察室へ。診察室には古川先生の病室、オーストラリアの先生から実践的な指導やアドバイスを受けながら、午後6時半の診療終了時間までじっくり見学した模様。

お疲れさまでした、Good night! 明日は午前中は診察室を見学、午後からは、お疲れさまでした、Good night!

午後8時からには宿泊先の会議室で、古川先生の呼び掛けで集まった地元の人たちとの情報交換会。国は違っても、島で生活する人同士、医療にこだわらず、環境や教育などまで話は広がっていた。

研修員が学ぶこと、アトボ

- ① 鍋にひびく大に切った肉とトマトを煮こく。しょうゆ、塩、コショウを加える。
- ② 水と油を混ぜる。
- ③ 味をみて、コショウを加えて軽く煮る。

アトボ (お肉の煮込み)

たけだまり、漫画家、4人、ショート料理漫画を中心に活動中。著書に「セイシユンの食卓」、『南国のメンチ』、『クッキングカンタム』、『キッチンのかま』、『テンヤツ屋 ShopMalop』等あり。http://malop.com/new/

今回紹介するのは、鹿児島県で実施されている「離島医療」研修。これは、離島における地域医療の実践や研究が行われてきた鹿児島県の経験を生かし、県と鹿児島大学が協力して、開発途上国の離島・へき地医療にかかわる人材を育成し、島嶼地域の医療向上を図るのが目的だ。巡回医療や遠隔医療などのシステムを学ぶだけでなく、予防から治療、リハビリまで病気を全体的に診る全人的医療を行う医師と接する機会を通して、離島の長所を地域医療に生かす視点を持つてもらおうとも重視している。

研修員は自国で離島・へき地医療にかかわる医師たち。約2カ月間、県や大学のほか屋久島や奄美大島と与論島などの離島の病院・診療所などで講義・実習を受け、最後に自国の離島医療向上のための行動計画案(アクションプラン)を作成する。

今回の研修員は、7000以上の島を持つフィリピンから来たジニーさんとガビさん。ジニーさんは、へき地医療にかかわる医師の研修や配置に携わる保健省の医療担当官で、ガビさんはピラ州立病院の公衆衛生担当の専門医だ。私たちは、与論島バナウル診療所で行われた2人の実習現場におじゃましました。

鹿児島県南端、人口5000人弱の与論島にあるバナ(「花」)ウル